



# **KIDS同窓会**

## **NPO法人KIDSの歴史とこれから**

**特定非営利活動法人KIDS**  
**代表理事 山本 美樹夫**

**2026年3月20日**



KIDSは子どもたちの笑顔のために活動しています

- KIDSの歴史を振り返る
- 1人1人のKIDSとの関わりについて  
(1人3分程度)
- KIDSの現状課題と今後の方向性に向けた  
フリーディスカッション
- 懇親会



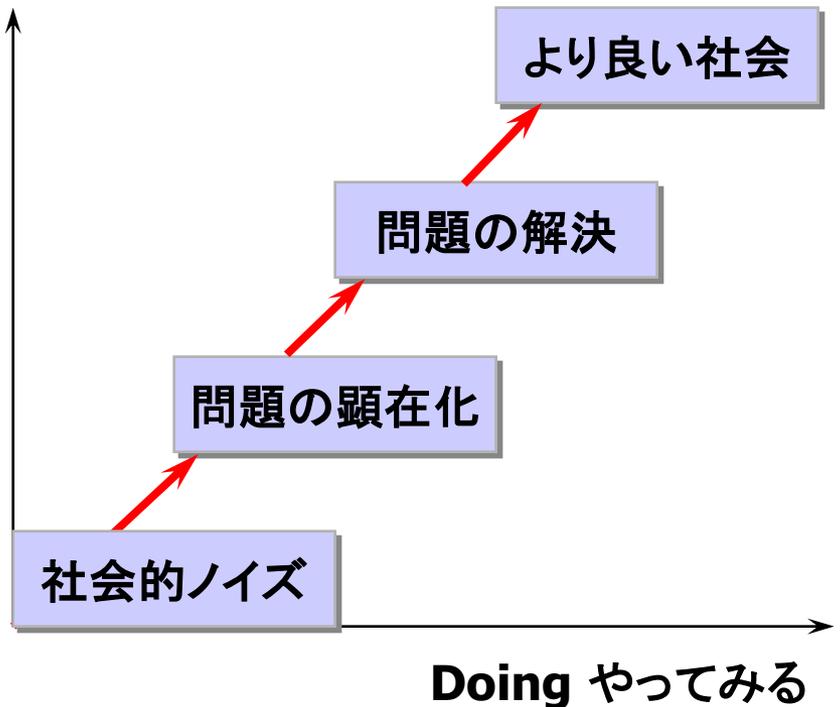
KIDS創設者  
リード・メジャース

**“Knowing Is Doing Something”**  
「やってみれば、わかる」の理念の下、  
子ども達へのさまざまな社会教育活動  
を行うボランティア・コーディネート団体

1992年、「日本の施設は閉鎖的過ぎる」  
というリード・メジャースからの問題提起に  
より、日米欧の有志が立ち上げ

## KIDSの理念（フィロソフィー）

Knowing  
わかる



## KIDSの活動目標

- ・ 子どもたちへの継続的な社会教育の奨励
- ・ 市民一人ひとりの社会貢献意識の高揚
- ・ 国籍、企業、老若男女、そして障がいの有無を超えた共存社会の提案



楽しい  
やりがい  
できる



## KIDSの活動形態

### 「プロジェクト活動」

子どもたちとボランティアの  
出会いの場の創造



### 「定期施設・団体訪問活動」

子どもたちとボランティアと  
の継続的交流の場

# KIDS KIDS活動ポートフォリオ(例示)



狙い

基本的社会生活  
慣習と、健全な  
精神育成

就業や社会出発  
のための準備

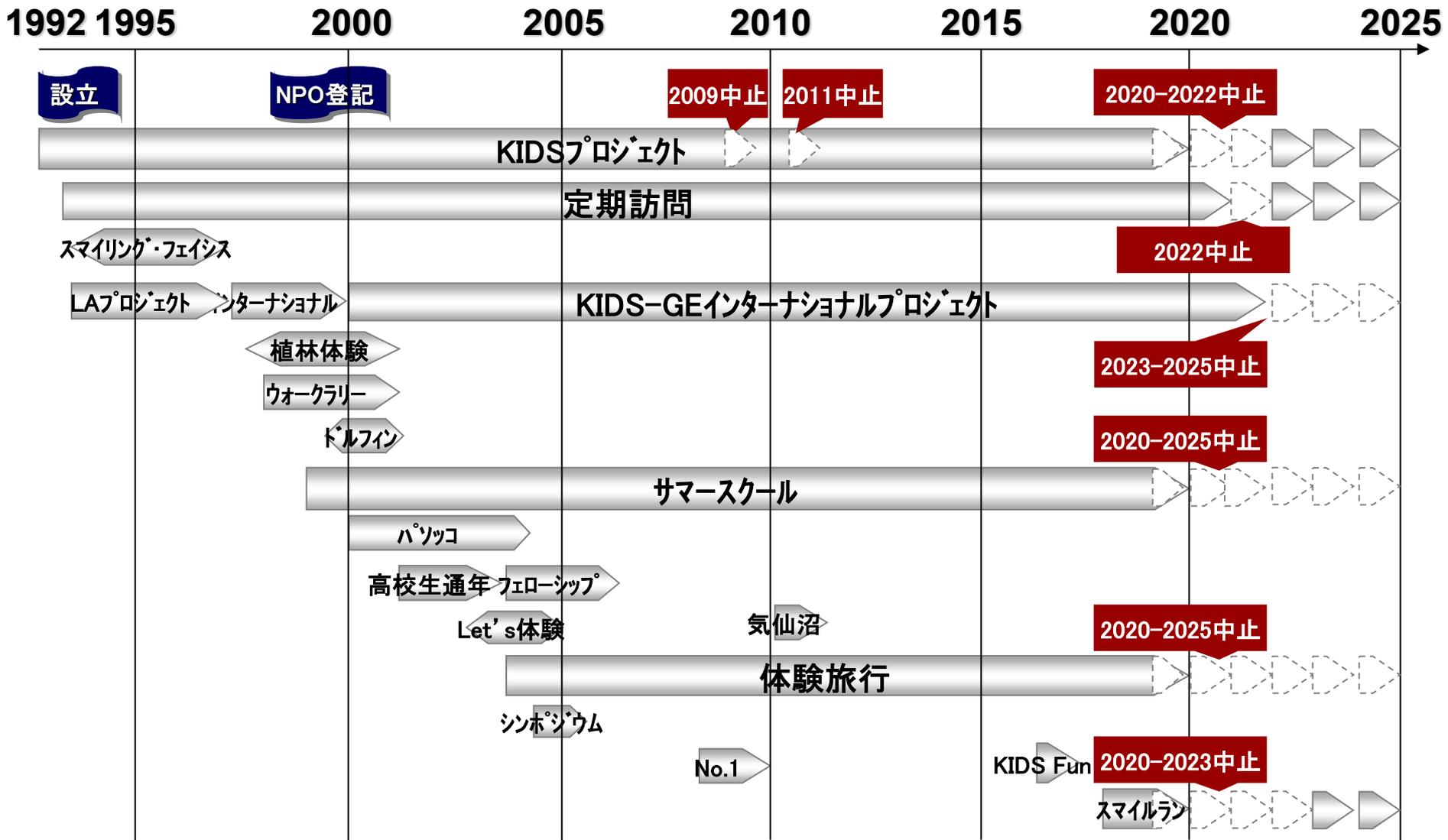
狙い

潜在的ハンディ意識の  
排除と自立性の向上

基本的社会  
生活への適応



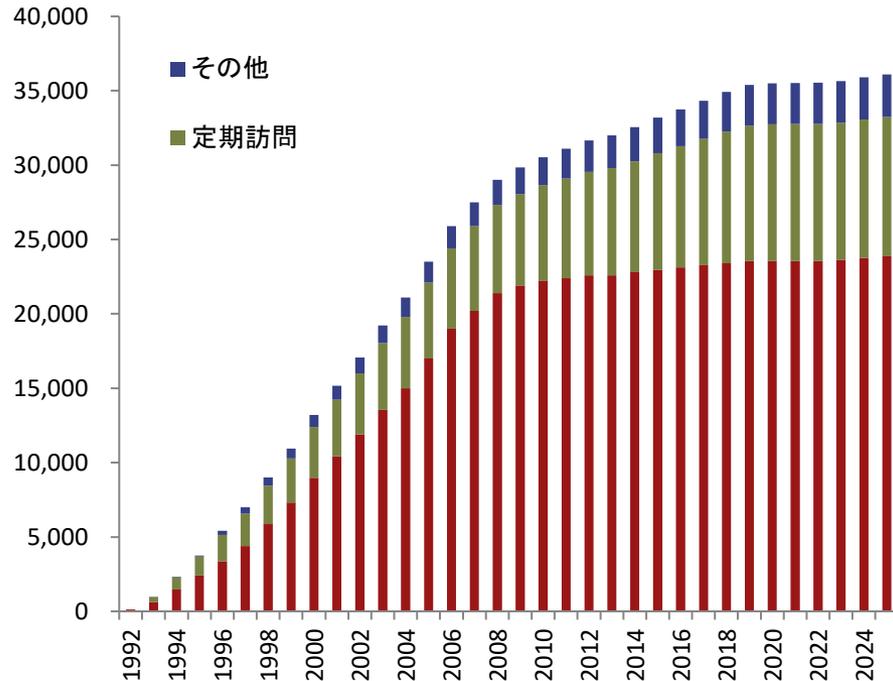
# 設立から34周年目を迎えたが、活動は3つに限定



# KIDS 設立以来、7万4千人以上がKIDSの活動に参加

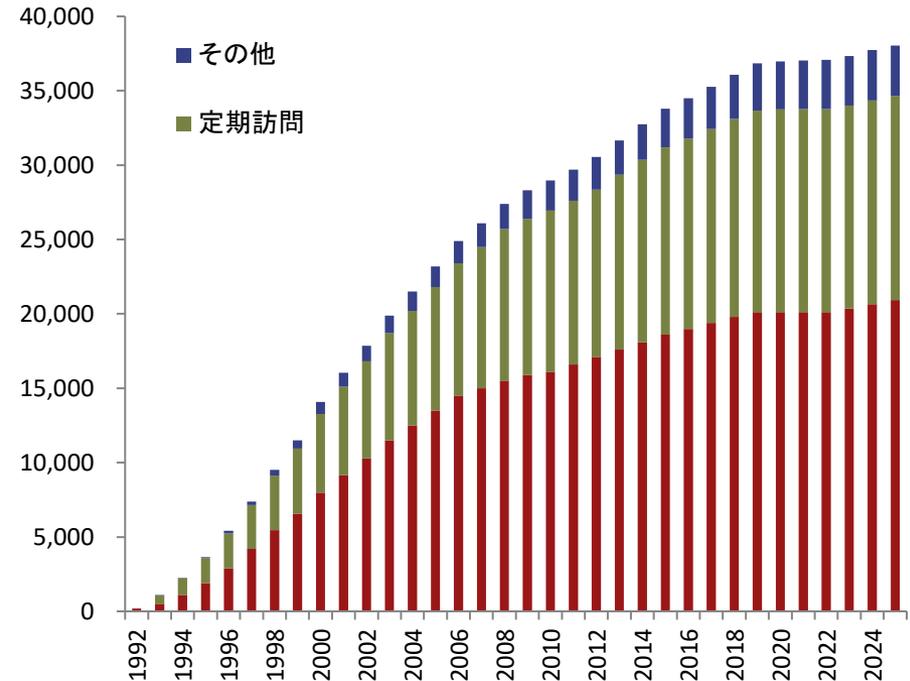
## KIDSへの子ども達の参加状況

(累積数)



## KIDSへのボランティア参加状況

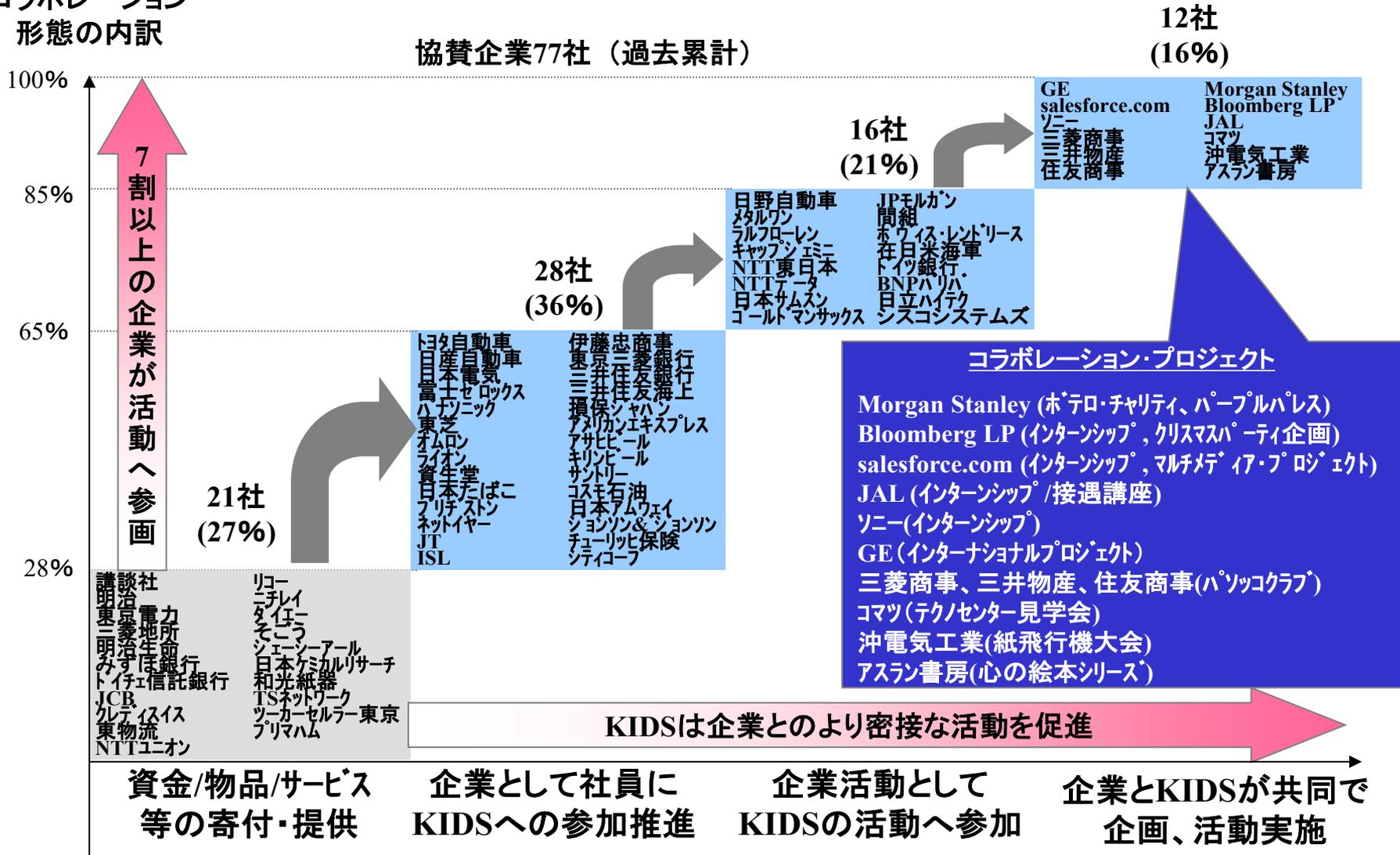
(累積数)



35期(2024年10月～2025年9月)は、子ども、ボランティア合計で  
490人の参加があった

# KIDS NPOと企業とのコラボレーションの進捗状況

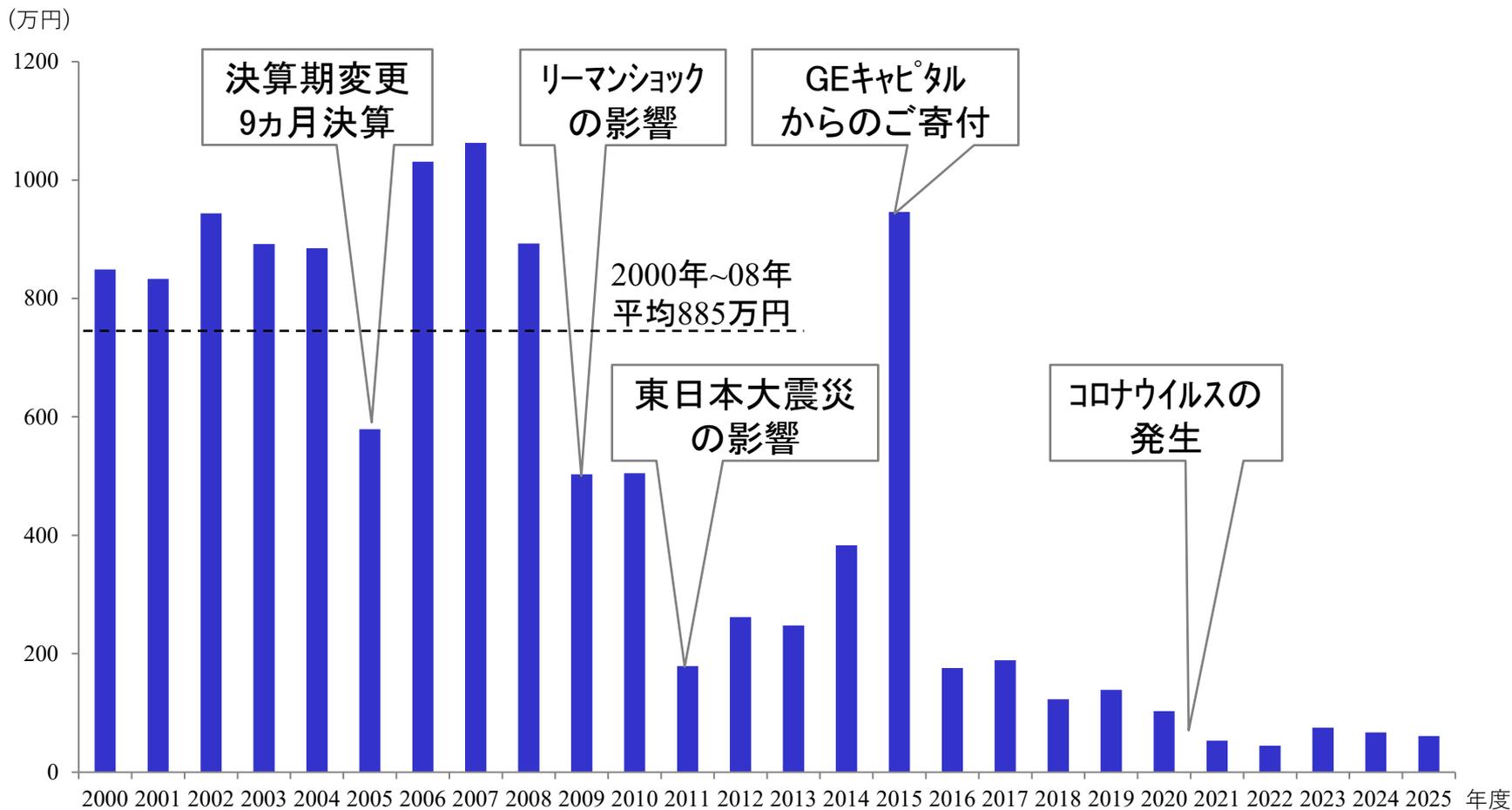
## コラボレーション形態の内訳



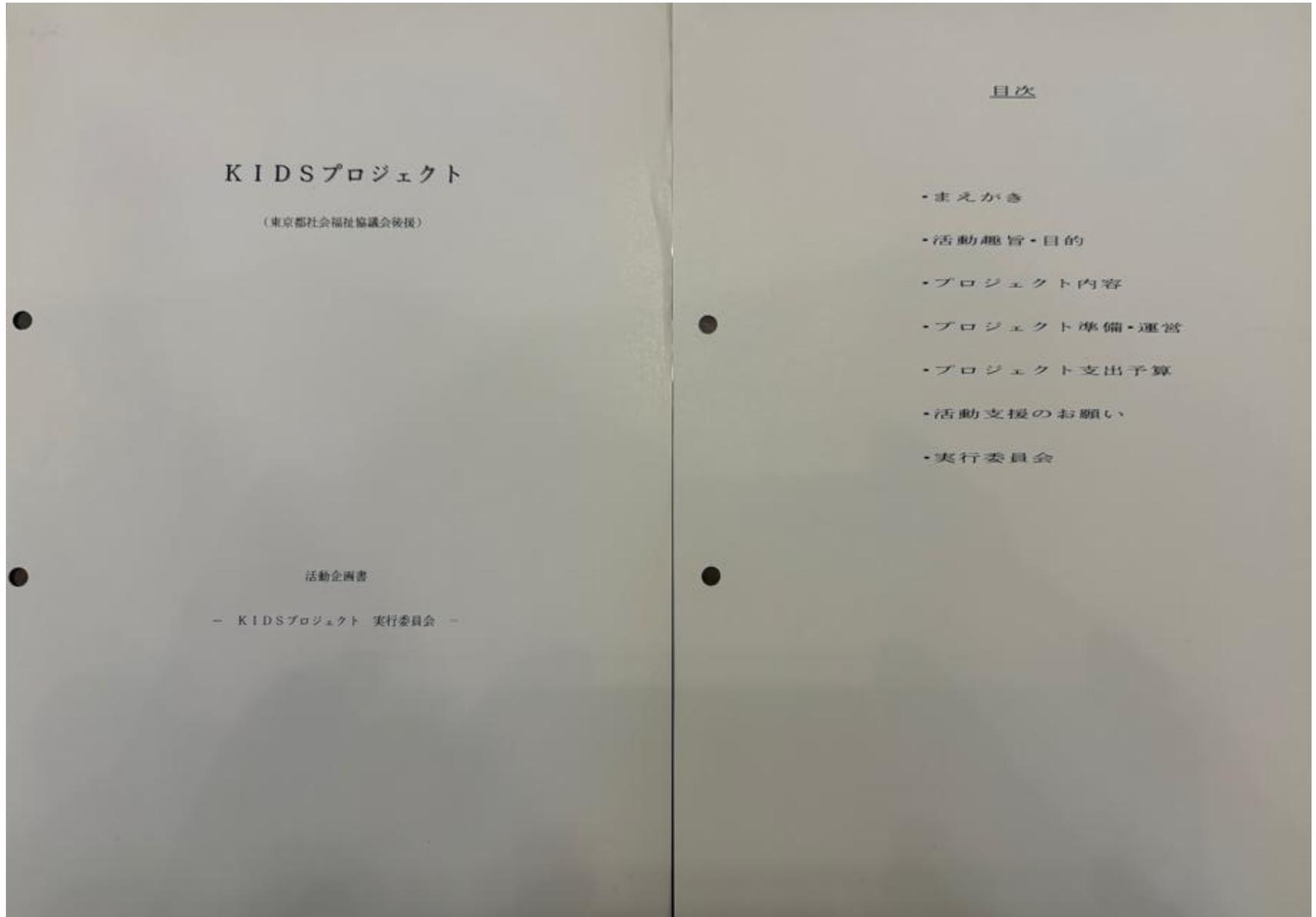
## KIDSと企業とのコラボレーション形態



# さまざまな社会背景が表れた寄付金の推移



リーマンショック、東日本大震災、新型コロナの影響に加え、  
社会の目は環境などにシフト



# KIDS 第1回KIDSプロジェクト企画書②

## まえがき

20世紀の最後の10年に突入した1991年を振り返りますと、国際的には湾岸戦争に始まり旧ソビエトの崩壊など、さまざまな歴史的な大事件が起こりました。また日本国内を見渡しますと、これまで続いた好景気に翳りが見られ、国際理念を軽視した利益追求型の日本社会に対する反省の一端が促されました。

国と国、民族と民族、企業と企業、そして人と人との関係が競争から協調への変遷を歩み始める時代がもうここまでやって来ているのではないのでしょうか。『地球サミット』の開催を迎える1992年、『エコロジー』そして『フィランソピー』という言葉が日常語として使われるのもこうした時代の流れを強く反映しているものと考えます。

さて、今回私達が計画した『KIDSプロジェクト』はこうした時代の変遷を具現化するものに他なりません。国を越えた同志が集い、多くの企業の人的及び金銭的支援を受けながら、知的発達遅れというハンディキャップを持つ子供達約100人を夢と幻想の世界、東京ディズニーランドへ案内しようというものです。約100人の子供達には私達約20名の実行委員のほか、私達の行う広報手段をもとに自ら手を挙げて下さる100人以上のボランティアの方々が行き、国籍、企業、老若男女そしてハンディキャップの有無等を問わない1つの理想的人間集団として、5月14日の1日を思う存分楽しもうというものです。

本プロジェクト終了後、第2、第3のプロジェクトとして、パリとロサンゼルス、ディズニーランドでも同様の企画を予定しております。また、1993年あるいは1994年には、それぞれ2,000人の子供達を対象にKIDSプロジェクトを世界同日開催し、その後はそれぞれの国々において、KIDSプロジェクトを継続していくこと、実行委員一同頑張っております。

1992年3月吉日

KIDSプロジェクト実行委員会

## 活動趣旨・目的

KIDSプロジェクトのメンバーは、人間は『社会貢献』にできるだけ多くの時間を費やすべきであるという信念を持ち、自らが率先してその範を示そうと考えております。北欧の一部の国を除く多くの国々では、社会福祉のインフラストラクチャーがあまりにも貧弱であり、身体障害あるいは精神薄弱の方々への社会参加はかなり難しいものになっております。日本の企業における障害者雇用率は1.6%というガイドラインが設けられておりますが、多くの大企業がこの数字をクリアできないという事実は否めません。私達は人間一人一人の能力を敬い、同じときを生きる友人としてすべての人間を同等であると考えます。それではどのようにしたら、身体障害や知的発達の遅れを持つ友人たちの社会参加が可能になるのでしょうか。その第一ステップは、彼らができるだけ多くの場合で社会に出ていくことを奨励し、生活を分かち合い、彼ら一人一人の存在の意義をみんなで認め合うことではないでしょうか。

『社会貢献』という言葉は金銭的援助のみを意味するものではありません。自らが体を動かし行動を起こすことが大切です。行動することによってこそ人は自らの意思を表現できると考えます。本プロジェクトを遂行するにあたり、企業や協会による金銭的支援は非常に重要なものですが、私達一人一人がもう一歩踏み込んで、自分に何が出来るかを真剣に考えることは何よりも大切なことだと信じております。

私達は、今回精神薄弱の子供達を対象にプロジェクトを遂行します。社会への帰属意識を幼いころから育んでこそ、健常者と同じ生活をするための道徳や習慣が容易に養われると考えます。また同時にハンディキャップのない子供達が、ハンディキャップのある子供達を自然な形で受け入れることを期待します。

KIDSプロジェクトの目的は、約100人の精神薄弱の子供達と多くの友人達に心の通う交流の場を提供し、みなさんに夢のような楽しい一日を過ごしていただくことの他に、以下のような狙いを含んでおります。

1. 市民一人一人の社会貢献意識の高揚
2. 国籍、企業、老若男女そして障害の有無等を越えた共存社会の提案
3. 子供達への継続的社会教育の奨励

# KIDS 第1回KIDSプロジェクト企画書③

## プロジェクト内容

- ・主催 KIDSプロジェクト実行委員会
- ・後援 東京都社会福祉協議会
- ・日時 1992年5月14日(木)  
11時～16時(予定)
- ・会場 Tokyo Disneyland
- ・参加者数 精神薄弱者 約100名 (およそ6歳～30歳の男女)  
ボランティア 約100名  
プロジェクト実行委員会 約20名
- ・参加施設 社会福祉法人「愛の森学園」  
(神奈川県厚木市 ☎0462-48-5211)  
精神薄弱者授産施設「ワークショップ・フレンド」  
(神奈川県相模原市 ☎0427-77-1790)  
こども会「まどか」  
(東京都港区 ☎045-973-7306)  
「東京国際学習センター」  
(東京都調布市 ☎0422-31-9611)  
「中野養護学校」  
(東京都中野区 ☎03-3384-7741)
- ・内容 1: オープニング・セレモニー & ランチ  
2: アトラクション・ツアー  
(1グループ: 子供5名、ボランティア5名、スタッフ1名)  
3: ミッキーと遊ぼう!(ミッキーやミニーたちと記念撮影も)  
4: 「ミッキー&ミニーショー」の鑑賞(全員)  
5: スペースマウンテン・ラウンジでおみやげをもらおう。  
6: クロージングセレモニー  
(内容の詳細は検討中)

## プロジェクト準備・運営

- ・KIDS設立 1992年2月 KIDSを設立。実行委員会は日本、米国を初めとする多国籍の約20名で構成する。
- ・Outlook作成 プロジェクト企画書の作成および機能別サブグループの編成。(2月～3月下旬までに参加者を確定の予定。  
各ボランティアグループへのコンタクト実施。その他新聞公募等によるボランティアの募集を準備中。参加者の確定は4月中旬の予定。
- ・予算 参加者数、企画内容によりプロジェクト予算を見積もる。(3月上旬) 後援企業へのアプローチ開始。予算確定は4月上旬の予定。
- ・広報 各新聞社、雑誌社及びTV局へのアプローチを開始。(3～5月)
- ・当日の予定 子供達の希望や肉体的疲労、緊急時の対処等を十分考慮したスタッフの体制、スケジュールの作成(4月上旬)
- ・子供達の移動 各施設からTokyo Disneylandまでの往復の移動方法を検討する。(2月下旬～3月下旬)
- ・活動報告 プロジェクト終了後、活動報告書(会計報告及び活動成果等)を参加施設をはじめ協力企業、団体及び個人に対して送付する。(6月中)

## プロジェクト支出予算

KIDSプロジェクト支出予算の見積もりは下記の通り。ただし参加者数は予定数を使用。

・Disneyland入場料	¥ 750,000
・昼食代	¥ 500,000
・移動費用(バスチャーター代など)	¥ 900,000
・お土産代	¥ 400,000
・広告費	¥ 90,000
・記録代(ビデオ、スナップ写真代)	¥ 100,000
・通信代(郵送費、電話代等)	¥ 39,000
・印刷代(プロジェクト企画書、リーフレット等)	¥ 50,000
・記念Tシャツ代	¥ 450,000
・セレモニー及びイベント開催費(会場費等)	¥ 80,000
・雑費(含イベント保険料)	¥ 138,000
予算合計	¥ 3,497,000

# KIDS 第1回KIDSプロジェクト企画書④

## 活動支援のお願い

KIDSプロジェクトは、本プロジェクトの趣旨、目的を深くご理解くださる民間企業、各種団体および個人の方々からの助成金ならびに寄附金とプロジェクト参加者からの参加費をもとに運営されます。

### プロジェクト収支予算

◇総収入予算◇ 3,497,000円

収入項目	収入予算額	備考
参加費	440,000円	2,000円×220名
助成金及び寄附金	3,057,000円	

計 3,497,000円

◇総支出予算◇ 3,497,000円

KIDSプロジェクトとして上記の予算額を必要としております。つきましては、誠に勝手なお願いではございますが、次のような形でご支援いただけましたら幸いです。

企業又は団体におかれましては寄附金 一口 20万円

個人におかれましては寄付金 一口 5千円

尚、20万円以上のご寄附をいただいた企業、団体におかれましては、ご希望により、当日子供達及びボランティアが着用するTシャツにお名前とロゴを印刷致します。また、収支決算により余剰金のある場合には、各参加施設への寄付とさせていただきます。

貴社、貴団体にてご寄附いただける場合には、下記の口座へのお振り込みをご利用下さい。またお問い合わせにつきましては、Reed Majors、山本 美樹夫、Ann-Sophie Cremers、Margot Enbomのいずれかに直接ご連絡ください。(連絡先は添付のリストをご参照のこと)

東京相和銀行 本店(100)

(普)044886-290512

名義 KIDS-Reed Majors

## 実行委員会

- 1.2. 丹野 幸敏、いづみ (日本航空)  
044-799-0427 (自宅)、03-3747-3511 (勤務先)  
03-3747-4134 (FAX)
3. 末田 外洋 (日本IBM)  
0559-87-3690 (自宅)、0559-73-0620 (勤務先)  
0559-71-8360 (FAX)
4. 江間 直美 (インターナショナル・バンク)  
03-5704-3919 (勤務先)、03-5704-3457 (FAX)
5. ヒラリー・モース  
774 Kingston Ave., Piedmont, Ca. 94611, USA  
415-658-5739 (自宅)、415-653-8849 (FAX)
- 6.7. クリスティン・スペンサー・ハーレイ、カラ・ニールス (IPEC)  
03-3372-9791 (自宅)、03-3433-2001 (勤務先)
- 8.9.10. ブルーノ・グランドサード、クレイ・ヤシーン、リード・メジャース  
(ジャパンビジネスチャレンジ、IBJ、JBD)  
03-3485-4059 (自宅)、03-3485-4845 (自宅FAX)  
03-5689-3535 (リード勤務先)  
03-5689-3534 (リード勤務先FAX)
11. キャサリン・ミラー (富士ゼロックス)  
03-5377-4405 (自宅)、03-3587-0328 (FAX)
12. ロバート・森 (富士ゼロックス)  
0462-37-1262 (勤務先)、0462-37-1270 (FAX)  
044-752-7182 (自宅)

# KIDS 第1回KIDSプロジェクト企画書⑤

13. ケビン・ボート(カイク Inc.)  
03-3585-7464 (自宅)、03-5684-0852 (勤務先)  
03-5684-0855 (FAX)
- 14.15. クリス&マーゴット・エンボーム (ARC インターナショナル)  
03-3447-8044 (自宅、FAX)
16. ジリアン・ウェルステッド(電通 Inc.)  
03-3454-7632 (自宅、FAX)  
03-3544-5527 (勤務先)、03-5565-7639 (FAX)
17. エリエヌ・ルスター  
03-3773-6775 (自宅)、03-3211-6339 (FAX)
- 18.19. 山本 美樹夫、弘美(富士ゼロックス)  
0427-41-1719 (自宅)、0462-37-1414 (FAX)  
0462-38-3111 EX. 2244 (勤務先)
20. アン・ソフィ・クレマース(ハイデルベルク-PMT)  
045-753-7496 (自宅)、03-3763-4141 (勤務先)  
03-3767-8090 (FAX)
21. 小松 登志(セコム、顧問)  
03-3316-3725 (自宅)
22. 浅羽 由紀子(翻訳)  
03-3716-7816 (自宅)、03-3221-4181 (勤務先)  
03-3221-4183 (FAX)
23. 松永 大介(顧問)  
外務省 北米担当
24. ロゴ作成/グラフィックアート  
デイビット・ノーベル(講談社)  
03-3316-1835 (自宅)、03-3239-6330 (勤務先)

## KIDSプロジェクトへのご協力依頼 (東京都社会福祉協議会后援)

\_\_\_\_\_様

KIDSプロジェクト実行委員会  
山本美樹夫 ■0427-41-1719

拝啓

時下ますますご隆昌のこととお喜び申し上げます。

さて、この度私たちKIDSプロジェクト実行委員会では、同封いたします企画書の通り、来る5月14日(木)、東京近郊に住む精神薄弱の子供達約100人を対象に、東京ディズニーランド一日旅行を行います。現在各参加予定施設との打ち合わせを進めるとともに、参加ボランティアの呼びかけ(約100人を予定)や各企業への金銭的あるいは人的援助の依頼を行っております。

ここで、KIDSプロジェクトとは、東京、ロスアンゼルスそしてパリのディズニーランドに、それぞれの都市の近郊に住む精神薄弱の子供達を案内しようという世界的福祉活動であり、主に身体障害者を対象とした旅行列車「ひまわり号」と同様に継続的活動を目指しております。第一回目の東京ディズニーランドの企画を運営する実行委員会は、多国籍の有志約20名で構成されており、国籍や企業を越えたチームワークで頑張っております。

本プロジェクトを遂行するにあたり、より多くの方々のご参加をいただくために、同封いたしますポスターの掲示によるボランティア募集にご協力いただければ幸いです。真に勝手なお願いではございますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

平成4年4月吉日

敬具

## 東京 ディズニーランド へ行こう!



### ボランティア募集

4月23日(金)、みんなで東京ディズニーランドへ行きます!この日、東京近郊に住む精神薄弱の子供達及び社会的なハンディキャップを持った子供達約200人を夢と幻想の世界へ案内しよう、と日米欧等の有志が設立した「KIDS:Knowing Is Doing Something」が本プロジェクトを運営します。国と国、企業と企業、そして人と人との関係が競争から協調への変遷を歩み始めた時代の中で、国籍、企業、老若男女そして障害という壁を取り外し、みんな同じ時を生きる友人として楽しい一日を過ごそうというものです。どうぞ皆さんもご協力下さい!尚、当日参加していただける方は3月31日(水)までに下記の所までご連絡下さい。後日、活動の詳細に関する資料をお送りします。

#### 記

- 主催 : KIDSプロジェクト実行委員会  
 後援 : 東京都社会福祉協議会  
 日時 : 4月23日(金) 10時~16時  
 参加費 : ￥2,000 (入場料、昼食代込み。交通費自己負担)  
 申込み : 〒151 渋谷区西原3-39-7 KIDSプロジェクト  
 問合せ : Reed Majors ☎ 03-3485-4059 (自宅)  
 ☎ 03-3485-4845 (自宅FAX)  
 山本 美樹夫 ☎ 0427-41-1719 (自宅)  
 ☎ 0462-38-3111内2244 (富士ゼロックス)

## LIFESTYLE

### Foreigners find ways to volunteer

By JANINA M. de GUZMAN  
 At the exit of Tokyo Disneyland about 250 people of different ages and nationalities gathered in noisy groups, talking, laughing, exchanging jokes. A spectacular afternoon of bright sun and brisk breezes was graying as the clouds piled up.

It was time to go home, but no one was in a big hurry. Happy faces attested to a great day. For 113 mentally and physically challenged students, the activities of May 14 — an excursion to Disneyland — lunch, rides and a parade — provided recreation of the kind most kids take for granted but which for these children is not so readily available.

The coordinators of the day, a grassroots volunteer organization called KIDS Project (Knowing Is Doing Something), began planning the event over six months ago. KIDS itself came into existence not long before that, funded by foreigners eager to volunteer but unable to find a channel for their philan-

thropic energy in Tokyo. With so much enthusiasm going into the creation of KIDS it was not long before the group formulated a goal — raising awareness of children with special needs and planning activities to integrate them into regular life — and an agenda, which featured a trip to Disneyland for 100 children to be accompanied by the same number of volunteers.

In order to mobilize the necessary ¥3.5 million, 100 volunteers and support of large corporations necessary to get their project off the ground, KIDS organizers pulled out their *meishi* and picked up the phone, plugging into Tokyo's giant web of connections.

The overwhelming interest of Japanese companies, even those approached at the top level without a proper introduction or established connection, came as a big surprise.

Although the initial response to requests for financial support was often an encouraging, "We'll think about it," this proved to be no



TOKYO DISNEYLAND was the site chosen by KIDS volunteer group for their first project — an excursion for students with special needs and the volunteer chaperones who became their friends. PHOTO BY DAVID STETSON

false promise. KIDS' committee member Gillian Weststead explains that the pyramid structure of Japanese companies made it necessary for a request to travel up the top to be discussed and debated, a procedure often requiring several months.

In many cases it wasn't so much a lack of interest as a matter of timing. Most companies had already planned their yearly budgets, so it was too late for them to make a major donation. "But now we know when to approach them," Weststead added with a grin.

As for recruiting volunteers for the Disneyland excursion, KIDS members simply spread the word through friends and coworkers. For many it was a first-time experience. "I'm really anxious. I don't know what to do," said one soft-spoken man who explained that he had wanted to try volunteering for a while, "but before I didn't have a chance, so I said yes," to the KIDS project.

KIDS coordinator Katherine Miller says that volunteers received minimum instructions on how to act with their charges because there was no "right way." Everything proceeds very naturally, assures Miller. One young woman, a first-time volunteer, proves the point: "At first I was very nervous, but now I'm fine," she exclaimed over her shoulder as she and her young friend walked off

arm in arm. For Ted Hara the KIDS project was an opportunity to resume the volunteering activities he had enjoyed as a college student in the United States.

"Here," said Hara, shaking his head, "volunteering is not yet part of society."

KIDS committee members cite several reasons for the apparent dearth of volunteering in Japan, one of them being the traditional practice of families taking care of their own and not relying on outside help. "Someone suggested that in Japan 'volunteering' called to mind the people who stand outside train stations, notebook and pamphlets in hand, asking for contributions on behalf of refugees. For many, direct involvement with the needy of Japan — not those of some distant country — is a novel idea.

Mikio Yamamoto, an employee of Fuji Xerox and one of KIDS' most active committee members, attributes the lack of visible volunteering in Japan to the country's emphasis on economic progress and teamwork. He believes these leave little leeway for volunteering.

Indeed, many of the volunteers attending the May 14 outing took the day off from work just as they would have if they had been sick. They preferred that no one know about their volunteering activities: "At the office they

don't know anything. I thought maybe I should do this in a quiet, reserved way," explained Hara.

Indeed, this perfectly describes the state of volunteering in Japan — quiet and reserved. "When I wanted to start volunteering two and one-half years ago, I had a very hard time finding the opportunity," says Yamamoto. A little foraging around, however, revealed a beehive of activity right under the surface: Japan International Corporation Agency (JICA), Japan Youth Volunteer Association (JYVA), volunteer centers that publicize opportunities for and seminars related to volunteering (these under the auspices of the Ministry of Health and Welfare's National Council of Social Welfare) and "home help service groups" which teach specific volunteering skills, such as how to help people in wheelchairs or how to relate to the mentally challenged.

The problem, says Yamamoto, is that most people just don't know these facilities exist. Consequently, they remain unaware of volunteering opportunities.

The big, bright plans of KIDS Project hope to light the way. If you'd like to get involved with KIDS Project call (03) 3485-4059 or fax (03) 3485-4845 for information on meetings and upcoming activities. If you would like to make a donation, the following bank account has been established: Tokyo Sowa Bank, Main Branch, account number 044886-290512, KIDS-Reed Majors.

### HAIKU MOMENTS

Translated with comments  
 By KRISTEN DEMING and KOJI SUZUKI

● A snowball fight —  
 A Buddhist statue in the field  
 Serving as a shield.

雪合戦  
 野の仏を  
 盾として  
 山田 孝子  
 Yamaida Takako

The season word for winter is *yuki-gassen* (a snowball fight).

This is a serenely peaceful and smile-provoking scene. However, with the increasing urbanization of Japan, such a sight tends to be something from yesterday's world. In Japanese villages, there are still Buddhist statues built by the devout. In the situation depicted in the poem, the statue, normally an object of worship, is used as a shield for protection from snowball attacks. This use of the statue, though inappropriate, creates humor for the reader. The careless innocence of children is charmingly described.

This kind of snowball fight could take place in a similar way in snowy regions all over the world. However, the background scenery of such a fight might be different. The poet is successful in symbolizing Japan by using a Buddhist statue as the basis for the poem, since the Buddhist tradition penetrates every corner of the country.

THE NIKKEI WEEKLY  
WEEK ENDING JUNE 6, 1992

## FOREIGN JOURNAL

STREET  
TALK

### How adequately does Tokyo meet the needs of its handicapped people?

■ MARGARET KIRTON, 28, city planner from Sydney, Australia: "As a city planner in Sydney, serving the needs of handicapped people was always a major consideration, especially under the standard environmental law. The same law exists in Japan but only new buildings are made accordingly and old ones aren't. One thing that surprised me, though, was that you have braille on your (money) bills. I think this is great."



■ MICHELLE COLBY, 34, marketing manager from California, U.S.: "You rarely see handicapped people on the streets and I think that they're probably more confined to home because there aren't the options available to them where they can get around and be a part of society."

■ LEE BOYLAN, 26, English teacher from Perth, Australia: "I live in Itabashi-ku where there is a home for handicapped persons. And I think that the people who work in the stations are very helpful to the handicapped. But it's usually a 10- or 15-minute wait for people in wheelchairs, etc., to be taken down to the subway. I don't really think I've ever been to a country that does cater for the handicapped people as well as they possibly could."



— By Mihoko Iida

### School teaches life skills to children with disabilities

You can almost hear a drumroll. Then, suddenly, burly schoolmaster Ross Anderson hops onto the tiny trampoline, launching an elated Mary into the arms of volunteer helper Brent.

Brent explains to Mary, a British 5-year-old with Down's syndrome, that it's time for him to rejoin his eighth-grade classmates at the nearby American School in Japan. He blows her a kiss. For an instant, Mary seems about to become sad. Instead, pressing palm to mouth, the bubbly youngster creates the word "bye" with a force that sends her hand back through the air to return the kiss.

Anderson, 44, a teacher and acting director at Tokyo International Learning Community, scoops up Mary with one arm and begins reading to her from a picture book.

The only school in Japan devoted to educating international children with developmental disabilities, TILC's enrollment has increased steadily since its founding by a group of parents in 1987. "With 15 kids from 10 countries now,"

says Anderson, "we measure growth by rambunctiousness."

He adds, "The real challenge is to meet the broader range of special needs. We're working with preschool- to high-school-aged kids. Some are severely mentally handicapped, and others have only mild learning disabilities."

"The teachers here — whatever their particular training and experience with special-needs children — have to be versatile."

The school's programs, conducted in English, aim to provide the children with life skills, including dressing themselves, shopping and interacting with non-handicapped peers. For kids in the "severe" program, activities such as coloring and playing with building blocks help develop hand-eye control. Hassan, a cheerful 15-year-old Pakistani, spends time in the "mild" program learning to use a computer when he's not reading or doing math.

"Without TILC," Fumio Boulton says, "my family would not have come back to Tokyo." She participates with her son

### Project raises awareness about needs of mentally handicapped children

BY BILL CLIFFORD  
Staff writer

A group called KIDS dreamed it up — giving special children a chance to dance with mermaids in a parade — and made it happen.

Reed Majors says a visit last fall to *Ai no Mori Gakuen*, where he and a Japanese friend spent a day helping mentally handicapped children learn to write and draw, "got me thinking really big."

To raise awareness about children with special needs and to encourage a more vibrant volunteer spirit, Majors and nine other foreigners who work in Japan founded KIDS — Knowing Is Doing Something.

Majors, a 32-year-old business consultant from California, tells how the KIDS project evolved: "Initially, we were aiming very high, with a plan to send 2,000 mentally challenged kids to each of the Tokyo, Los Angeles and Paris Disneyland on the same day."

"But we realized pretty quickly that



Reed Majors, KIDS founder.

Ross Anderson, acting director of Tokyo International Learning Community, with James, at Disneyland.

without an organization in place in all three countries, it would be too hard to achieve in our first year. So we narrowed our goals and drew up a proposal in January to take 100 kids to Tokyo Disneyland by summertime."

After dozens of committee meetings and a massive fund-raising effort, the

group made it possible on a brisk spring day last month for 114 young people to experience such joys as riding a train through the Wild West and holding hands with Donald Duck.

Five schools in the Tokyo area — *Ai no Mori Gakuen*, *Kodomokai Madoka*, *Nakano Yogo Gakko*, *Suzuran no Ie* and Tokyo International Learning Community (TILC) — participated. Joining teachers and parents, more than 100 volunteers were divided among small groups of kids.

"Our schoolchildren came to Disneyland last year," recalls Machiko Buckley, a Down's syndrome specialist at TILC, "but the train from Tokyo to the park was — wow — like a noisy attraction in itself."

"The bus provided by KIDS made this trip much easier, and the KIDS T-shirts identify us and keep the time waiting in line for the rides to a minimum," she says aboard the Jungle Cruise. Beaming at 5-year-old Mary, who ducks with a giggle into her lap to avoid the spray from trumpeting elephants, she adds, "Everyone is having fun today."

Majors says, "To create an event that's not forgotten and has lasting benefit, we wanted to get these kids out into society where lots of regular kids would see them. Then children who don't have disabilities can see the ones who do as wanting the same things: happiness, respect, opportunities to challenge themselves and be included."

For the KIDS committee, which has grown to include 22 foreign and Japanese members, helping to foster a community service ethic was an important

project goal.

Mikio Yamamoto, 32, a committee member with a full-time job in imaging technology research at Fuji Xerox Co., doesn't buy the argument that working long hours for a company deters volunteering. He manages to find time to assist the Japan Wheelchair Tennis Association and, often joined by his wife, to visit elderly people who live alone. He also spreads the word about volunteer activities by writing for his company's in-house magazine.

"With the focus on developing and securing stable lives for ourselves since the war, Japanese people have largely neglected the volunteer spirit," Yamamoto says. "Churches or religious groups don't offer that many chances for community service here either."

"I'm not aware of how to find volunteer work in Japan," says Tadayuki Hara, who took a day off from corporate banking at the Industrial Bank of Japan to pitch in for KIDS at Disneyland. "I was contacted by a friend for this project, and it's my first time volunteering in my own country."

Hara says that during his student days at Cornell University's School of Hotel Management in New York he took a course in housing and feeding the homeless. When in New York City or Washington, D.C., he would phone the national Homeless Hotline to find out about shelters where he could help prepare and distribute food.

"The concept of volunteering is much more developed and part of the society in America," he says. "It may be catching on in Japan, but there is still a somewhat negative image of volunteering because it is associated with pushy people asking for money in front of train stations."

Companies in Japan are getting into the act. Some, like IBM Japan, offer employees up to 12 days off with pay if the time is spent volunteering. And Japanese and foreign corporate sponsors were key to the KIDS project, providing more than ¥2.5 million in cash, Disneyland tickets, toys and transportation services.

Majors says fund-raising was tough because many of the companies that KIDS approached had already allocated their charitable giving for the fiscal year. But with corporate contacts in place, know-how and more time to plan for next year, Majors is starting to think big again.

"We want to give as many schoolchildren as possible a chance to participate. Some of the KIDS volunteers report they've already been contacted by colleagues who want to get involved next time — that is the impact we hoped for."





# 2001年以降のKIDSの年次活動方針

- 2001年 10th Anniversary: 活動の棚卸し、オフィス移動
- 2002年 Performance Stretch: 企画書・報告書定型化
- 2003年 3D Marketing: セミナー参加、フライヤー作成
- 2004年 心のレゾナント: シンポジウム
- 2005年 見える化: 会計年度変更
- 2006年 身近さ: メルマガ
- 2007年 Sustainability: 外部討論会、責任規定作成
- 2008年 「場」から「意志」へ: 作り上げる機会への誘導
- 2009年 インパクト: 回りを巻き込む影響力のある企画
- 2010年 Max from Minimum: 縮小予算からの最大価値創造
- 2011年 Will oriented: ディレクターがやりたいプロジェクトの実施
- 2012年 Going concern: 設立20年を向えたKIDSの存続を検討
- 2013年 Zero base: 環境変化に対し、新たなKIDSの活動を検討
- 2014年 Smile for all: 子ども達の笑顔一杯にする企画を重視
- 2015年 新しい風を: 難しくない! もっと気軽にプロジェクトに参加を
- 2016年 Experience: 新しい体験を! 多くの子ども達に
- 2017年 Collaboration: 子ども達、ボランティア、みんな一緒に
- 2018年 Step up: 活動品質の高度化、効率化による笑顔の最大化
- 2019年 Disruptive Innovation: 従来のやり方を壊し、新たな価値創造
- 2020年 Think Big!: 物事を大きく考えて、新たなスケールに挑戦
- 2021年 On-line!: コロナの状況が不透明な中、オンライン活動を推進
- 2022年 30th Anniversary: コロナ禍からの日常への回帰に向けた新たな転換
- 2023年 Reboot: 31年目からの活動の再加速
- 2024年 視野を広げよう: コロナ後の活動の再開に際し、従来の視野からの脱却
- 2025年 新規開拓: 子ども達、参加者、ボランティア、そしてスポンサー企業の新規開拓促進
- 2026年 Power: コロナの影響で停滞する活動を力技で活性化

# KIDS 1992年～1999年

	1992年	1993年	1994年	1995年
KIDS イベント (TDL)	第1回： 子ども120名 参加者200名	第2回： 子ども220名 参加者330名	第3回： 子ども470名 参加者500名	第4回： 子ども470名 参加者500名
施設訪問	施設へ訪問開始	定期訪問開始 (北区：星美ホーム)	定期訪問実施	施設別プロジェクトの開始
インターナショナル イベント		第1回 L.A.プロジェクト 子ども120名、 参加者150名 第1回 Smiling Faces	第2回 L.A.プロジェクト 子ども150名、 参加者200名	第3回 L.A.プロジェクト 子ども200名、 参加者100名 第2回 Smiling Faces アメリカ海外視察
備考	KIDS設立 (1992年2月)	Save The Children Japanと協力開始	Fund-raise イベント実施 会員登録制の導入	KIDSフォーラム発行開始 手話講座開始 神戸震災の子ども支援
	1996年	1997年	1998年	1999年
KIDS イベント (TDL)	第5回： 子ども500名 参加者600名 施設集合イベント設置	第6回： 子ども400名 参加者550名 施設集合イベント拡大	第7回： 子ども400名 参加者505名 在宅障がい児参加呼びかけ	第8回： 子ども368名 参加者617名 在宅障がい児募集枠の拡大。継続性重視
施設訪問	施設訪問の強化 第1回紙飛行機大会	施設への定期訪問9箇所に拡大 第2回紙飛行機大会	関東近辺9施設に訪問 継続交流活動 ボランティア実施	関東近辺9施設に訪問 継続交流活動 ボランティア実施
インターナショナル イベント	第1回 Int'lプロジェクト： 子ども6名渡米 第4回 L.A.プロジェクト 子ども200名 参加者100名	第2回 Int'lプロジェクト： 子ども5名渡米 第5回 L.A.プロジェクト 子ども150名 参加者50名	第3回 Int'lプロジェクト： 子ども4名渡米 第6回 L.A.プロジェクト 子ども60名 参加者10名	第4回 Int'lプロジェクト： 子ども6名渡米(異文化交流、米国企業訪問)
イベント 企画			植林プロジェクト開始 (富士山)	植林プロジェクト (モリコロ植林実施) 第1回お祭り実施 (東京都伊豆大島) 子ども18名 参加者20名
備考	KIDS独立法人の開設 独立事務書準備	重油回収作業の実施 NPO化検討開始 他団体との交流活性化	NPO化準備 定款作成 独立事務所準備 Fund-raise イベント(葛西臨海公園)ボランティア実施	NPO正式登録 第1回総会開催 独立事務所設置(西小山) Fund-raise イベント(葛西臨海公園)ボランティア実施

# KIDS 2000年～2003年

	2000年	2001年	2002年	2003年
<b>KIDS プロジェクト (TDL)</b>	第9回： 子ども479名 ボランティア803名 事前・事後交流会の 実施。継続性重視	第10回： 子ども358名 ボランティア556名 継続性重視 身体知的障がい 子どものみ募集	第11回： 子ども317名 ボランティア458名 継続性重視 重度障がい子ども枠を 拡大	第12回： 子ども375名 ボランティア584名 継続性重視 自立Gと交流Gの導入
<b>施設訪問</b>	関東近辺9施設に訪問 継続交流活動 ユマフプロジェクト実施	関東近辺9施設に訪問 継続交流活動 施設定期訪問交流会実施	定期訪問先の追加（あゆ み学園）米軍基地訪問 定期訪問施設交流会実施	PCスクール実施 米軍基地訪問 定期訪問交流会実施
<b>インターナ ショナル プロジェクト</b>	新たな企画を行ったが 実行性の観点で中止	第5回 Int'lプロジェクト (GE協賛)： 子ども6名渡米 (米国福祉施設訪問 Give Kids the World) 日韓交流イベント開催： 日本子ども16名 韓国子ども10名 ボランティア30名	第6回 Int'lプロジェクト (GE協賛)： 子ども9名渡米 (米国福祉施設訪問 Give Kids the World)	第7回 Int'lプロジェクト(GE 協賛)： 子ども6名渡米 (米国福祉施設訪問 Give Kids the World)
<b>インターナ ショナル プログラム</b>	植林プロジェクト (富士山、箱根植樹) 第2回マースクール実施 (山梨県)子ども28名 ボランティア30名 第1回パソコンクラブ実施 (PC教室)	高校生ボランティア支援 プログラム(高校生15名) 第3回マースクール実施 (群馬県)子ども46名 ボランティア38名 第2回パソコンクラブ実施 (PC教室)	高校生ボランティア支援 プログラム(高校生14名) 第4回マースクール実施 (埼玉県)子ども48名 ボランティア41名 第3回パソコンクラブ実施 (PC教室) Let's体験プロジェクト(ハン 焼き体験)実施障がい児 12名、ボランティア31名	高校生ボランティア支援 プログラム 第5回マースクール実施 (群馬県)子ども45名 ボランティア39名 サマインタウン(就業体験) 実施(高校生4人)
<b>備考</b>	第2回総会開催 トルフィンプロジェクト実施 (子ども6名) ウォーク-実施 (昭和記念公園)	第3回総会開催 児童養護施設PCサークル 立上げ(あゆみ学園)	第4回総会開催 児童養護施設駅伝マラソン 大会、ボランティア支援	第5回総会開催 NOPアワード2003受賞 (東京青年会議所)

# KIDS 2004年～2007年

	2004年	2005年	2006年	2007年
<b>KIDS プロジェクト (TDL)</b>	第13回： 子ども276名 ボランティア485名 継続性重視、自立G 実施、事後交流会実施	第14回： 子ども229名 ボランティア442名 継続性重視、完全自立 (チャレンジ)G実施	第15回： 子ども205名 ボランティア364名 継続性重視 シブホセッション	第16回： 子ども235名 ボランティア426名 継続性重視、原点回帰
<b>施設訪問</b>	PCスクール実施 米軍基地訪問 定期訪問交流会実施	PCスクール実施 定期訪問交流会実施	PCスクール実施 定期訪問実施	PCスクール実施 定期訪問実施
<b>インターナショナル プロジェクト</b>	第8回 Int'lプロジェクト： 子ども6名渡米 (米国福祉施設訪問 Give Kids the World)	(第9回開始準備) 会計年度の変更により、 2005年12月に実施した GKTW 渡米は2006年度	第9回 Int'lプロジェクト： 子ども7名渡米 (米国福祉施設訪問 Give Kids the World)	第10回 Int'lプロジェクト： 子ども6名渡米 (米国福祉施設訪問 Give Kids the World)
<b>イデュケーション プログラム</b>	高校生ボランティア支援 プログラム 第6回サマースクール実施 (静岡県)子ども48名 ボランティア36名 サマインターン(就業体験) 実施(高校生5名) 接遇講座実施 (中高生25名) 第1回体験旅行実施 (那須高原) 障がい児15名 ボランティア25名	第7回サマースクール実施 (群馬県)子ども46名 ボランティア44名 フェロシッププログラム (就業体験) (高校生12名) 第2回体験旅行実施 (那須高原) 子ども15名 ボランティア32名	第8回サマースクール実施 (福島県)子ども45名 ボランティア35名 フェロシッププログラム (就業体験) (高校生9人) 第3回体験旅行実施 (静岡県) 子ども18名 ボランティア31名	第9回サマースクール実施 (静岡県)子ども45名 ボランティア47名 フェロシッププログラム (就業体験) (高校生4名) 第4回体験旅行実施 (静岡県) 子ども17名 ボランティア39名 第1回 No1プロジェクト 子ども6名 ボランティア7名
<b>備考</b>	第6回総会開催 第1回心のプロジェクト シブホセッション	第7回総会開催 会計年度の変更(9月 決算)第8回総会開催	第9回総会開催 理事合宿実施 メールマガジン開始	第10回総会開催 代表交代 会員組織改正

# KIDS 2008年～2011年

	2008年	2009年	2010年	2011年
KIDS プロジェクト (TDL)	第17回： 子ども229名 ボランティア414名	(中止) 前年度と同様の規模にて 通常通り準備を進めるも 実施2週間前に新型インフル ンザ・パンデミックの影響を 考慮し、中止	第18回： 子ども237名 ボランティア478名 首都圏外(札幌)からの 子ども参加、ボランティア不足 対策、集合/受付場所 確保、開園10時	(中止) 東日本大震災の影響で 11月(2012年度)へ 延期
施設訪問	PCスクール実施 施設TDL 定期訪問実施	PCスクール実施 定期訪問実施 施設TDL	PCスクール実施 定期訪問実施 施設TDL	PCスクール実施 定期訪問実施 施設TDL
国際 プロジェクト	第11回 Int'l プロジェクト： 子ども8名渡米 (米国福祉施設訪問 Give Kids the World)	第12回 Int'l プロジェクト： 子ども7名渡米 (米国福祉施設訪問 Give Kids the World)	第13回 Int'l プロジェクト： 子ども8名渡米 (米国福祉施設訪問 Give Kids the World)	第14回 Int'l プロジェクト： 子ども8名渡米 (米国福祉施設訪問 Give Kids the World)
インター ンシップ プログラム	第10回サマースクール実施 (神奈川県) 子ども48 名、ボランティア45名 第5回体験旅行実施 (千葉県) 子ども20名 ボランティア34名 第2回 No1 プロジェクト 子ども8名 ボランティア30名	第11回サマースクール実施 (埼玉県) 子ども45名 ボランティア35名 第6回体験旅行実施 (千葉県) 子ども18名 ボランティア31名 第3回 No1 プロジェクト 子ども4名 ボランティア30名	第12回サマースクール実施 (群馬県) 子ども47名 ボランティア31名 第7回体験旅行実施 (茨城県) 子ども30名 ボランティア48名 第4回 No1 プロジェクト 子ども8名 ボランティア22名	第13回サマースクール実施 (埼玉県) 子ども46名、 ボランティア32名 第8回体験旅行実施 (茨城県) 子ども23名 ボランティア44名 第1回東北プロジェクト (宮城県) 総勢46名 (高校生ボランティア4名、 障がい児10名含む)
備考	第11回総会開催 理事改選 理事合宿	第12回総会開催 新型インフル ンザ対策	第13回総会開催 理事改選、定款改定(電磁 的方式)、役員候補 前提の活動実施計画	第14回総会開催 被災地への支援物資送付

# KIDS 2012年～2015年

	2012年	2013年	2014年	2015年
KIDS プロジェクト (TDL)	第19回： 子ども165名 ボランティア350名 付添121名 2011年度活動のシフト	第20回： 子ども168名 ボランティア318名 付添122名	第21回： 子ども156名 ボランティア245名 付添116名	第22回： 子ども141名 ボランティア247名 付添97名
施設訪問	PCスクール実施 定期訪問実施 施設TDL	PCスクール実施 定期訪問実施	PCスクール実施 定期訪問実施 施設TDL	PCスクール実施 定期訪問実施
インターナショナル プロジェクト	第15回 Int'l プロジェクト： 子ども8名、ボランティア17名。京都での英語ツアークルトの実施	第16回 Int'l プロジェクト： 子ども6名。京都での英語ツアークルトの実施	第17回 Int'l プロジェクト： 子ども6名が京都での英語ツアークルト実施。ボランティア16名、チャーター31名、観光客外国人18名	第18回 Int'l プロジェクト： 子ども13名が渡米京都での英語ツアークルト実施。ボランティア17名、チャーター52名、観光客外国人33名
エデュケーション プログラム	第14回サマースクール実施 (静岡県) 子ども48名 ボランティア32名 第9回体験旅行実施 (群馬県) 子ども15名 ボランティア29名	第15回サマースクール実施 (群馬県) 子ども33名 ボランティア27名 第10回体験旅行実施 (茨城県) 子ども19名 ボランティア33名	第16回サマースクール実施 (山梨県) 子ども47名 ボランティア25名 第11回体験旅行実施 (千葉県) 子ども13人 ボランティア31人	第17回サマースクール実施 (山梨県) 子ども47名 ボランティア25名 第12回体験旅行実施 (茨城県) 子ども16人 ボランティア30人
備考	第15回総会開催 理事改選	第16回総会開催 オフィス移転(代々木から↓ 御成門シェアオフィスへ移動)	第17回総会開催 理事改選	第18回総会開催 GEキャピタルによる↓ 高額のご寄付

# Kids 2016年～2019年

	2016年	2017年	2018年	2019年
KIDS プロジェクト (TDL)	第23回： 子ども183名 ボランティア278名 付添109名 2011年度活動のシフト	第24回： 子ども145名 ボランティア345名 付添88名	第25回： 子ども135名 ボランティア270名 付添100名	第26回： 子ども140名 ボランティア231名 付添102名
施設訪問	PCスクール実施 定期訪問実施 施設TDL	PCスクール実施 定期訪問実施	PCスクール実施 定期訪問実施 施設TDL	PCスクール実施 定期訪問実施
インターナショナル プロジェクト	第19回 Int'l プロジェクト： 子ども8名、ボランティア22名。京都での英語「ア・ガ・ト」の実施	第20回 Int'l プロジェクト： 子ども4名、ボランティア20名。京都での英語「ア・ガ・ト」の実施	第21回 Int'l プロジェクト： 子ども12名、ボランティア70名。京都での英語「ア・ガ・ト」の実施	第22回 Int'l プロジェクト： 子ども8名、ボランティア55名。京都での英語「ア・ガ・ト」の実施
エデュケーション プログラム	第18回サマースクール実施 (山梨県) 子ども47名 ボランティア26名 第13回体験旅行実施 (新潟県) 子ども21名 ボランティア29名	第19回サマースクール実施 (埼玉県) 子ども24名 ボランティア22名 第14回体験旅行実施 (静岡県) 子ども17名 ボランティア30名 Kids Fun 子ども18名	第20回サマースクール実施 (山梨県) 子ども24名 ボランティア18名 第15回体験旅行実施 (茨城県) 子ども15名 ボランティア26名 東北風土マラソン&フェスティバル 47名、付添45名、ボランティア46名、スタッフ8名	第21回サマースクール実施 (群馬県) 子ども23名 ボランティア25名 第16回体験旅行実施 (茨城県) 子ども14名 ボランティア25名 東北風土マラソン&フェスティバル 55名、付添37名、ボランティア5名、スタッフ5名
備考	第19回総会開催 理事改選	第20回総会開催	第21回総会開催 理事改選	第22回総会開催

# KIDS 2020年～2023年

	2020年	2021年	2022年	2023年
KIDS プロジェクト (TDL)	(中止) COVID-19の影響により、子ども募集開始後に中止を決定	(中止) COVID-19の影響の中で中止を決定	(中止) COVID-19の影響の中で中止を決定 KIDS30周年記念スポーツイベント開催を検討したが見合わせ	第27回： 子ども90名 ボランティア154名 付添81名
施設訪問	PCスクール実施 定期訪問は、規模を縮小して実施	PCスクール実施 定期訪問は、規模を縮小して実施	PCスクール実施 定期訪問中止	PCスクール実施 定期訪問は、限定的に規模を縮小して再開
インターナショナル プロジェクト	第23回 Int'l プロジェクト： 子ども5名、ボランティア50名。鎌倉を想定した「インターナショナル英語ツアー」の実施	第24回 Int'l プロジェクト： 子ども3名、ボランティア70名。鎌倉での英語ツアーの実施	第25回 Int'l プロジェクト： 子ども4名、ボランティア70名。鎌倉での英語ツアーの実施	第26回中止 秋田プロジェクトの検討開始
イデオロギ プログラム	第22回サマースクール中止 第17回体験旅行中止 東北風土マラソン&フェスティバル中止	第22回サマースクール中止 第17回体験旅行中止 東北風土マラソン&フェスティバル中止	第22回サマースクール中止 第17回体験旅行中止 東北風土マラソン&フェスティバル中止	第22回サマースクール実施 第17回体験旅行中止 東北風土マラソン&フェスティバル中止
備考	第23回総会開催 理事改選	第24回総会開催	第25回総会開催 理事改選	第26回総会開催

# KIDS 2024年～2025年

	2024年	2025年
KIDS プロジェクト (TDL)	第28回： 子ども118名 <u>ボランティア</u> 198名 付添103名	第29回： 子ども109名 <u>ボランティア</u> 193名 付添79名
施設訪問	PCスクール実施 定期訪問は、規模を縮小 して実施	PCスクール実施 定期訪問は、規模を縮小 して実施
インターナショナル プロジェクト	第26回中止 新規プロジェクトを検討中	第26回中止 新規プロジェクトを検討中
イノベーション プログラム	第22回サマースクール中止 第17回体験旅行中止 東北風土マラソン&フェスティ バルKIDS <u>スマイル</u> 開催 ↓ <u>リーダー</u> 20名、 <u>ボランティア</u> 20 名、 <u>スタッフ</u> 25名、付添15 名程度	第22回サマースクール中止 第17回体験旅行中止 東北風土マラソン&フェスティ バルKIDS <u>スマイル</u> 開催 ↓ <u>リーダー</u> 12名、 <u>スタッフ</u> 26名、 付添4名程度
備考	第27回総会開催 理事改選	第28回総会開催

# KIDS KIDSプロジェクト



毎年100～150名の子どもたちと  
約200名のボランティアが  
TDLで楽しい一日を過ごします

子どもたちの思い出の1コマ  
気軽なボランティア参加  
そして 参加者みんなの  
「ふれあいの場」となります



# KIDS KIDSサマースクール





▼夕飯はBBQ



▼動物との触れ合い

はじめての体験ばかり、TRY! TRY! TRY!



▼ソーセージ作り

▼バター作り



# Kids Let's体験(パン焼き)プロジェクト



Let's体験プロジェクト  
一枚の新聞記事から始まった

それは小倉昌男さんが書かれた  
スワンベーカリーにまつわる内容

できないと決め付けないで  
みんなに支えながら頑張ったら  
こんなにおいしいパンができたんだ



スワンベーカリー

スワンカフェ SWAN CAFE

【TOP】スワンベーカリー | スワンの2nd | スワンケーキの紹介 | スワンベーカリーとは | スワンに紹介されました！

ようこそ！スワンベーカリーへ。スワングループは、多くの障害者の自立と社会参加を支えています。

NEWS

- ★ 新作パン情報 公開しました。 (05.2.18)
- ★ 新作パン情報 公開しました。 (05.1.25)
- ★ 鎌倉店 1月のイベント情報 (05.1.25)
- ★ スワンカフェスワンベーカリー1楼特別台座がオープンしました。 (04.12.27)
- ★ 新作パン情報 公開しました。 (04.12.27)
- ★ スワンベーカリーMOBE イベントメニューを特設しました。 (04.12.22)
- ★ スワンベーカリー鎌倉店 12月イベントまでクリスマススワンパン販売。 (04.12.22)

# KIDS KIDSインターナショナルプロジェクト



## ▼ GE社員による英会話レッスン(毎週末3ヶ月)



## ▼横須賀米軍基地ハイスクール訪問



## ▼GE Japan社長と(壮行会)



## ▼GKTW朝食サーブ



## ▼GKTW日本文化紹介



# KIDS KIDSフェローシップ(企業インターンシップ)

## ▼成果発表のプレゼンテーション



Salesforce.com 2004

## ▼接遇講座・挨拶の練習



日本航空(JAL)

## ▼顧客リスト集計中



Salesforce.com 2004

## ▼成果発表のプレゼンテーション



Bloomberg 2003



## ■概要

- 開催日時: 2026年4月19日(日)
- 開催場所: 宮城県登米市 長沼フードピア公園
- 参加者数: 参加者20名、スタッフ6名
- 狙い: 東北風土マラソン大会において、障がい者向けランをKIDSが企画・運営
- 主な活動内容 (参加者とボランティアとの交流活動)
  - 500mラン(スマイルラン)参加
  - フードフェスティバルへの参加
  - 交流イベント(神輿、ダンス)への参加



# Kids 施設定期訪問

▼夏祭り/餅つき



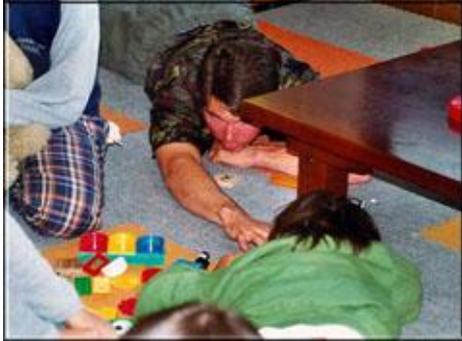
▼公園遊び



▼Jリーガー訪問



▼定期的な訪問 施設内での遊び



▼一緒に食事



▼工作



▼PCサークル



# KIDS 心のレゾナントシンポジウム



特別基調講演  
堀田力氏



第二部進行  
(代表)



開会宣言  
(副代表)



▼OGによるパート司会

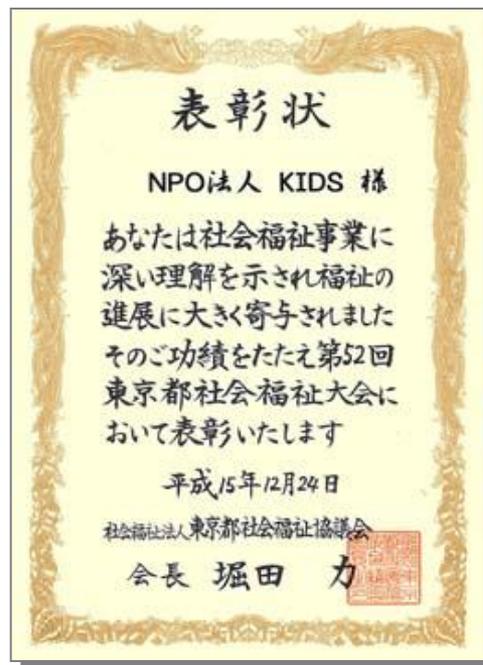
▼高校生体験発表

▼手作り託児コーナー





**NPOアワード  
特別賞  
2003年9月  
東京青年会議所**



**東京都社会福祉協議会  
会長賞  
2003年12月  
東京都社会福祉協議会**



**パートナーシップ大賞  
審査員特別賞  
2005年6月  
さわやか福祉財団**

